

一般
關係

S 1.4.4.0-1

03

REEL No. A-0463

0369

アジア歴史資料センター

秘

大正四年五月二十五日北京ニ於テ調印、南滿洲及東部内蒙古ニ關スル條約第五條第一項ニ日本國臣民ノ支那國警察法令ニ服スル場合ニ關スル規定アリ從テ日本國臣民ヲシテ支那國警察法令違反ニ因ル處罰ヲモ受ケシムルモノナラヤ否ヤノ問題ヲ生スル處帝國政府當初ヨリ趣旨ハ同條約第三條及第四條等ノ諸權利ヲ取得スル代償トシテ或ル種ノ罰則ニハ日本國臣民ヲシテ服從セシムルコトトナシタルニアル次第ニシテ若シ全然右等罰則ニハ服セシムル精神ナリトモ前記規定ハ殆ト無意味ノモノトナルヘシ只支那國警察法令ニヨル罰則中ニハ到底日本

國臣民ヲシテ服セシムヘカラサルモノアルニ付別ニ支那政府トノ間ニ交換セル公文ニヨリ日本國臣民ノ服從スヘキ警察法令ハ豫メ支那國官憲ニ於テ日本國領事官ト協議ノ上施行スヘキ旨ヲ取極メ以テ日本國臣民ノ利益ヲ保護シタルモノナリ又同條第二項但書所載ノ土地ニ關スル民事訴訟ナルモノノ意味ハ土地ニ關スル一切ノ訴訟ヲ含ムモノトスルニアリ

南滿洲鐵道附屬地行政官署
 支那警察法令ニ關スル事情

秘

大正四年五月二十五日北京ニ於テ調印ノ南滿洲及
東部内蒙古ニ關スル條約第五條第一項ニ日本
國臣民ノ支那國警察法令ニ服スル場合ニ關
スル規定アリ從テ日本國臣民ヲシテ支那國警
察法令違反ニ因ル處罰ヲモ受ケシムルモノナ
ルヤ否ヤノ問題ヲ生スル處帝國政府當初ヨリ
趣旨ハ同條約第三條及第四條等ノ諸權利
ヲ取得スル代償トシテ或ル種ノ罰則ニハ日本國
臣民ヲシテ服從セシムルコトトナシタルニアル次第ニシ
テ若シ全然右等罰則ニハ服セシメサル精神ナリ
トセハ前記規定ハ殆ト無意味ノモノトナルヘシ只
支那國警察法令ニヨル罰則中ニハ到底日本

S 1.4.4.0-1 06

國臣民ヲシテ服從セシムルヘカラサルモノアルニ付別
支那政府トノ間ニ交換セル公文ニヨリ日本國
臣民ノ服從スヘキ警察法令ハ豫メ支那國
官憲ニ於テ日本國領事官ト協議ノ上施
行スヘキ旨ヲ取極メ以テ日本國臣民ノ利益
ヲ保護シタルモノナリ
又同條第二項但書所載ノ土地ニ關スル民
事訴訟ナルモノノ意味ハ土地ニ關スル一切
ノ訴訟ヲ含ムモノトスルニアリ

b 1.4.4.0-1 07

採石

大正十二年一月調

南滿洲行政制度沿革

目録用紙

外務省

S 1.4.4.0-1, 08

記

目録用紙

明治三十九年日露講和條約ニ依リ關東州租借地及南滿洲鐵道ニ關スル露國一般ノ權利カ日本ニ讓渡セラレタルニ依リ關東州ニ於ケル統治權ト共ニ鐵道線路ニ沿ヘル附屬地帯ニ於ケル支配權モ亦帝國ニ歸シタリ關東州ノ統治ニ付テハ政府ハ三十九年八月ヨリ(註)關東都督府ヲ設置シ都督ヲ其ノ長官トシ陸軍大將又ハ陸軍中將ヲ以テ之ニ任スルモノトシ行政權ト共ニ兵權ヲモ委任セリ

(註) 明治三十九年八月一日勅令第一九六號關東都督府官制

鐵道附屬地帯ニ於ケル行政權ニ付テハ政府ハ南滿洲鐵道株式會社ヲ設立セシメテ之ニ鐵道ノ經營ヲ特許スルト共ニ附屬地帯ノ土木教育衛生等ノ行政ヲモ併セ委任シ唯警察及軍事ニ關スル權カハ之ヲ關東都督ニ屬セシメタリ會社ノ行政權ハ明治三十九年八月遞信、大藏、

外務省

S 1.4.4.0-1 09

外務三大臣ノ會社ニ對シテ發シタル命令書ニ其ノ根據ヲ有スルモノ
ニシテ該命令書ハ三十九年六月八日勅令第一四二號滿鐵會社令第一
三條ニ「政府ハ會社ノ事業ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發スルコト
ヲ得」トアルニ其ノ根據ヲ有ス此ノ命令書ハ其ノ第五條ニ於テ「其
社ハ政府ノ認可ヲ受ケ鐵道及附帶事業ノ用地内ニ於ケル土木教育衛
生等ニ關シ必要ナル施設ヲ爲スヘシ」ト言ヒ第六條ニ於テ「前條ノ
經費ヲ支辨スル爲其社ハ政府ノ認可ヲ受ケ鐵道及附帶事業ノ用地ノ
居住民ニ對シ手数料ヲ徵收シ其他必要ナル費用ノ分賦ヲ爲スコトヲ
得」ト言ヘルヲ以テ之ニ依リ滿鐵會社ハ略内地ニ於ケル地方自治體
體ト同様ノ權限ヲ有シ其ノ事務ニ關シテ諸規則ヲ定メ其ノ地方民住
ニ對シテ費用分賦ノ權ヲ與ヘラルルナリ然レトモ滿鐵ニ委任セラレ

（目録用紙）

外務省

タルハ上述ノ範圍ニ止マリ警察及軍事ニ關スル權力ハ關東都督ニ屬
シ南滿在住ノ帝國臣民ニ對スル民事刑事ノ裁判權ハ領事官ニ屬シ支
那地方官憲トノ交渉モ亦領事官ノ職權ニ屬セルナリ
今明治三十九年八月一日勅令第一九六號關東都督府官制ニヨル關東
都督ト滿鐵及領事官トノ關係ヲ概説スレハ
一 關東都督ハ(イ)滿洲駐劄軍隊ヲ統率シ(ロ)關東州内ノ司法行政事務ヲ
管掌スルノ外(ハ)鐵道附屬地内ノ警察事務ト通信事務トヲ掌リ(ニ)更
ニ南滿洲鐵道株式會社ノ業務ヲ監督ス
二 領事官ハ(イ)其ノ管轄内ニ於ケル帝國臣民ノ保護及通商ニ關スル帝
國ノ利益増進ノ事ニ任シ(ロ)管轄内(滿鐵附屬地ヲ含ム)ノ司法事
務ヲ司ルノ外(ハ)管轄内附屬地以外ニ於ケル教育其ノ他ノ行政上ノ

（目録用紙）

外務省

施設ニ付居留民團若ハ居留民會ヲ監督ス

南滿洲鐵道株式會社ハ鐵道附屬地内ニ於テ警察以外ノ行政即教育土木衛生等ニ關スル事務ヲ管掌ス

由是觀之滿洲在留邦人ノ警察ニ付テハ滿鐵附屬地ノ内外ニヨリ之ヲ異ニシ附屬地内ノ警察權ハ都督ニ屬シ附屬地外ノ警察權ハ領事官ニ於テ之ヲ行フ趣旨ナリトス然レトモ附屬地ノ内外ニヨリ警察權ヲ異ニシ其ノ間ノ調和ヲ圖ラサルニ於テハ行政ノ不統一ヲ來スノ虞頗ル大ナルモノアリシテ以テ附屬地内外ノ警察事項ニ付領事館及關東都督府間ノ調和ヲ保ツ爲明治四十一年勅令第二號及第五號ヲ以テ(イ)南滿洲在勤ノ領事官ヲシテ都督府事務官ヲ兼ネシメ(ロ)都督府警察官吏ヲシテ南滿洲ニ於ケル外務省警察官吏ヲ兼ネシムルコトトシ同時ニ

(已號用紙)

外務省

S 1.4.4.0-1

12

外務大臣ハ同年一月十日附ヲ以テ南滿洲各領事官ニ對シ左ノ内訓ヲ發シタリ

(一) 附屬地内ノ警察規則制定ニ關シテハ都督ノ指揮ヲ受ケ又同附屬地外ノ警察規則ハ事情ノ許ス限り附屬地内ノ規則ト調和ヲ計リ且制定ノ都度都督ニ報告スルコト

(二) 附屬地内ノ警察事項ニ關シテハ都督ノ指揮ヲ受クルコト

(三) 支那地方官及外國領事トノ交渉事項ニシテ附屬地ニ關涉スルモノニ關シテハ都督ノ指揮ヲ受クルコト

(四) 附屬地外ニ關スル領事官ノ執務上前二項ト關係ヲ保チ其步調ヲ一ニスル必要アリト認ムルモノハ事ノ緩急ニ應シ都督ヲ經由シテ外務大臣ノ指揮ヲ受クルカ又ハ直接外務大臣ニ稟請スルト共

(已號用紙)

外務省

S 1.4.4.0-1

13

ニ其旨都督ニ報告スルコト

該内訓ノ前文ハ此官制改正ノ目的ニ付キ左ノ如ク曰ヘリ

「南滿洲ニ於ケル警務」ノ統一ヲ計リ併セテ關東都督ト帝國領事官トノ職務關係ヲシテ一府近密圓滑ナラシメ以テ滿洲ニ於ケル帝國ノ政策遂行上 遺漏ナキヲ期センカ爲今般政府ニ於テ 議ノ結果南滿洲ニ

於ケル帝國機關ノ組織ニ改革ヲ施スコトニ決定シ別紙勅令案甲乙號寫ノ通不日御裁可ヲ經テ公布ノ運ヒニ至ルヘキ都合ニ有之候右改革ノ要點ハ領事官ハ警察權ヲ鐵道附屬地ハ上ニ及ホシ又ハ都督伊ハ警察權ヲ鐵道附屬地外ニ及ホスコトハ我官制若クハ條約上共ニ行ハレ難キニ依リ南滿洲駐在ノ領事官ヲ都督府事務官ニ又都督府警察官ヲ領事館付警察官ニ兼任シ得ルノ途ヲ開キ領事官ハ一方其當然ハ職權

外 務 省

ニ依リテ鐵道附屬地以外ハ警察權ヲ行フト同時ニ都督府事務官トシテ都督ハ指揮ハ下ニ鐵道附屬地内ハ警察權ヲ行ヒ又都督府警察官ハ一方鐵道附屬地内ノ警察勤務ニ服スルト同時ニ領事館付警察官トシテ領事ノ指揮ノ下ニ鐵道附屬地以外ノ警察勤務ニ從事シ得ルコトトシ而シテ都督府内部ニハ新ニ外事總長及警視總長ヲ置キ前者ハ改革後更ニ錯綜類繁ナルヘキ都督府涉外事務ヲ總理シテ能ク都督府ト關係領事館、公使館竝本省トノ連鎖トナリ意思ノ疎通事務ノ敏活ヲ計リ後者ハ從來ニ比シ擴張セラルヘキ警察事務ヲ總理シテ能ク南滿洲ニ於ケル警務ノ統一ヲ圖リ其機敏ヲ期スルニ有之候、、、」

以來本改正ニ依ル制度ハ維持サレ單ニ其改正ノ趣旨ヲ達センカ爲ニ明治四十三年小村大臣ハ三月三十一日附ヲ以テ在奉天、長春、牛莊

外 務 省

安東ノ各領事ニ對シテ訓令ヲ發シ
一都督府關涉事務執行心得方ニ關シテハ茲ニ明治四十一年一月十日
附ヲ以テ及内訓置候處右訓令中第一項前段及第二項ハ完全ニ實行セ
ラレ居ルモ第三項第四項及第一項後段ニ付テハ訓令ノ主旨十分ニ實
行セラレ居ラサルヤニ被存候廉モ有之候ニ付右ハ自今確實ニ其實行
ヲ見ル様特ニ御注意相成度又右ニ關連シテ左記各項モ亦今後實行相
成度候

一四十四年一月十日附訓令第三項ニ依リ都督ノ指揮ヲ受クヘキ事項
及第四項ニ依リ都督ニ通牒スヘキ事項ニ付テハ交渉ノ經過及顛末
ヲ其ノ都度都督ニ通牒シ且都督ニ通牒ノ旨本大臣ニ報告スルコト

外務省

一交渉事項又ハ其ノ他ノ事項ニシテ直接ニ租借地又ハ鐵道附屬地ニ
關涉セサルモノト雖之ニ影響ヲ及スト認メラルルカ又ハ兵力警察
力等ヲ要スルニ至ルノ處アリト思料セラルル事項ハ豫メ其ノ狀況
ヲ都督ニ通牒シ且其ノ旨ヲ本大臣ニ報スルコト
右及内訓置候也

ト言ヒ同一日附書翰ヲ以テ小村大臣ハ在京大島都督宛左ノ旨ヲ通シ
タリ一都督府關涉事務執行心得方ニ關シテハ茲ニ明治四十一年一月
奉天安東牛莊及長春駐在各領事官ニ又同年五月遼陽鐵嶺駐在各領事
官ニ夫々及内訓置候處右訓令各項中ニハ其ノ主旨未タ十分行ハレ居ラ
サルモノモ有之ヤニ被存候ニ付今般別別寫ノ通り前記各領事官ニ及
内訓置候間委細御承知相成度候又四十一年内訓第四項ハ鐵道附屬地

外務省

内外施設ノ步調ヲ一ニスル趣旨ニ基キタル次第ニ付附屬地ニ關スル
貴府所管事務ニ付キテモ亦右ノ趣旨ニ依リ可相豫メ關係領事官ノ意
見ヲ徵セラルル様致度將又領事官以外ノ帝國官憲ニ於テ租借地又ハ
鐵道附屬地ニ關涉スルモノニ付清國又ハ其ノ他外國官憲トノ間ニ交
涉アリタルトキハ其ノ交渉事項ニ關シテハ大臣ヨリ之ヲ閣下ニ進陳
スルコトト可致候間右様御承知相成度此段申進候敬具

越テ明治四十三年ニ至リ政府ハ内閣總理大臣直屬ノ下ニ拓殖局ヲ置
キ臺灣、朝太及韓國ニ關スル事項並外交ニ關スル事項ヲ除クノ外關
東州ニ關スル事項ヲ總括セシムルコトトシタル結果關東都督府官制
モ改正ヲ受ケ第四條、第八條及第十條ノ「外務大臣」ヲ内閣總理大
臣ニ改メ第四條ニ「但外交ニ關スル事項ニ付テハ外務大臣ノ監督

ヲ受ク」ヲ加ヘ第十二條乃至第十四條中「外務大臣ニ由リ」ヲ削ラ
レタリ之ニ依テ從來關東州ニ關スル事項ハ外務大臣ニ於テ統理シタ
ルヲ内閣總理大臣ノ統理ニ歸セシメ唯外交ニ關スル事項ニ付テハ從
前ノ通外務大臣ノ統理ニ服セシメタリ

大正二年ニ至リ當時ノ山本内閣ハ行政整理ヲ實行シ拓殖局モ廢止サ
レ其ノ結果關東州ニ關スル事項ハ舊ニ復シテ外務大臣ニ於テ統理ス
ルコトトナリ從テ關東都督府官制中第四條「内閣總理大臣」ヲ「外
務大臣」ニ改メテ但書ヲ削リ其ノ他夫々必要ナル改正ヲ加ヘ六月十
三日ヨリ施行シタリ

寺内内閣ニ至ルヤ大ニ滿滿行政ヲ統一シ日支新條約（大隈内閣時代
ニヨリ更ニ復雜トナレル南滿ノ日支關係ヲ處理シ帝國ノ地步ヲ確立

セムカ爲從來屢々問題トナリシ滿蒙行政統一實現ヲ企圖セリ當時外務省ノ見解ハ「滿洲ニ於ケル現行制度ノ缺陷タル各機關ノ不統一トハ畢竟諸般施政ニ關スル事務ノ不統一ニ歸着スル處同地方ニ於ケル行政及司法事務ノ大體ヨリ之ヲ通觀スルトキハ司法事務ハ鐵道附屬地ノ内外ヲ問ハス領事官ニ於テ專ラ之ヲ管掌シ且其ノ系統一貫セルヲ以テ不統一ヲ生スヘキ謂レナシ尤モ滿洲ニ於ケル司法事務ハ日支新條約ノ結果甚々複雑トナリタルヲ以テ早晚同地方ニ於ケル司法制度ニ相當ノ改正ヲ加フルノ必要アルヘシ又警察ハ鐵道附屬地内外ニ拘ラス事實領事官ノ管掌スル處ニシテ唯其ノ内外ニヨリ關東都督府事務官ノ資格ヲ以テスルト領事官當然ノ資格ヲ以テスルトノ區別アルニ止マルニ付實際上之カ統一ヲ期スルコト固ヨリ困難ニアラス其

(E 號用紙)

外務省

ノ他ノ行政事務例令教育土木衛生公課等ハ鐵道附屬地外ニ在リテハ領事官ニ於テ又附屬地内ニ在リテハ南滿洲鐵道會社ニ於テ夫々管掌スル所ニ屬スルヲ以テ自ラ時ニ兩者ノ間ニ調和ヲ失スルコトアルヲ免レサルヘキニ付此等ノ點及民團行政、非訴訟事件事務其ノ他居留民カ日常不利不便ヲ感シ居レル事項ニ關シテ此ノ際外務省關東都督府及滿鐵^等關係者間ニ協議ヲ遂ケ各具體的問題ニ對スル適當ノ手段ヲ採レハ足ル^ト云フニアリシ如ク本野外務大臣ノ寺内首相ニ對スル大正六年五月二十五日附書翰ハ即此ノ趣旨ヲ表明セルモノナリ其ノ書翰ニ曰ク

(E 號用紙)

外務省

於テモ全然御同感ニ有之從テ今回御計畫ニ係ル在滿帝國官憲官制改正ノ義モ固ヨリ右御經倫御遂行ノ一端ト存シ深ク不堪佩服所ニ有之候得共四圍ノ情勢ニ顧ミ目下ノ場合右ノ如キ改革ヲ實行スルハ其ノ時機ニ於テ又其ノ方法ニ於テ妥當ナリヤ否ヤ是レ拙者ニ於テ深ク疑念ヲ抱ク所ニ御座候

先ツ第一ニ都督ノ如キ一地方官ヲ以テ他國ノ領土タル滿洲全部ニ亘リテ駐在領事ヲ指揮スルカ如キハ國際既定ノ慣例ニ見ヘサル一大變則チ實施スルモノニ有之最近在支米國公使等ヨリ我對支方針宣明方ニ關シ内議ノ次第アリタルニ顧ミルモ明ナル通り去ラヌタニ我施政ニ對シ何カト疑懼ト不安ノ念トヲ絶タサル支那ハ今回ノ舉ヲ以テ帝國力愈朝鮮ニ於テ行ヒタル所ヲ以テ將ニ滿洲ニ臨マントスルモノト

(已覽用紙)

外務省

S 1.4.4.0-1 22

解シ支那朝野ノ人心ニ深大ノ印象ヲ與ヘ延テ對支外交ノ全局ニ言フヘカラサルノ累ヲ及ホスナキヲ保シ難ク元來朝鮮併合ノ衝ニ當ラレタル閣下カ現内閣ヲ組織セラレタルノ當時支那人一般カ閣下ノ朝鮮ニ於ケル偉業ニ想倒シテ早ク既ニ滿洲併合ノ事アルヘキヲ疑懼シ閣下ノ對支政策ニ異常ノ不安ヲ抱キタルハ疾ク御承知ノ通りニ有之其後漸次ニ現内閣方針ノ穩健着實ナルニ安心シ最近ニ到リ對支外交漸ク順潮ニ向ヒ諸事故障ナク取運フヘキ形勢モ相見エタル今日突然今回ノ如キ改革案ノ實行ヲ見ルハ其對支外交ニ及ホスノ影響誠ニ寒心ニ堪ヘサル次第有之候況ンヤ又關係列國ニ於テモ此舉ヲ以テ往年露國カ極東大守ヲ設ケテ諸事ヲ其ノ一手ニ收メ急激ニ滿洲ヲ併吞セントシタルト同一筆法ニ出ツルモノト爲スニ相違可無之或ハ之

(已覽用紙)

外務省

S 1.4.4.0-1 23

ヲ以テ帝國カ支那侵略ノ實行ニ一步ヲ進ムルモノトシテ彼等ノ間ニ
異常ノ印象ヲ與フルコトト可相成事茲ニ至ツテハ自然ニ我將來ノ對
支外交ハ甚シキ列強ノ猜疑ト不安トヲ惹起シ或ハ此末我對支經營ニ
各種ノ制肘ヲ受クルニ至ルモ保シ難ク旁今回ノ改革案實行ノ一事ノ
爲斯ル難局ヲ誘致スルカ如キハ洵ニ遺憾至極ニ有之先以テ此等ノ點
ハ切ニ閣下ノ明察ヲ祈ル處ニ御座候次ニ又都督ハ帝國全般ノ外交政
策ニ于與スルモノニ非ルカ故ニ都督ノ手ニヨリ行ハルル對滿外交方
針カ假令委任セラザル一部分ニセヨ往々ニシテ支那全部並列國一般
ニ對スル我外交政策トノ統一ヲ缺クノ虞モ少カラサル次第ハ申ス迄
モ無之元來外交ノ如キ常ニ列國ノ利害感情ノ機微ニヨリ運用スヘキ
政務ハ必ス全般ニ亘リ把握スル所ナクハ破綻自ラ之ヨリ生スルノ

(已覽川紙)

外務省

虞アリ滿洲一隅ノ事項ト雖モ直接間接ニ支那全體ハ勿論列國ニ迄モ
其ノ影響ヲ及ホスカ故ニ領事官ノ統率權ヲ都督ニ委任スルコトハ外
交ノ統一ニ累ヲ及ホスモノトシテ接者ハ洵ニ其ノ結果ニ付深大ノ憂
慮ノ次第ニ有之候、、、、略

(已覽川紙)

外務省



然ラハ寺内内閣カ目論見タル改革案ノ骨子如何ト云フニ先ツ殖民地
行政ノ統一ヲ期スル爲拓殖局ヲ設置シ且之ニ關聯シテ滿洲ニ於ケル
三頭政治ヲ統一改善シ更ニ進ンテ滿鮮統治機關ノ統一及滿鮮鐵道統
一ヲモ斷行セントスルノ意思アリ而シテ滿洲ニ於ケル三頭政治即關
東都督領事及滿鐵ノ三機關ハ其ノ權限異ル爲其方針相異リ外務ノ優
柔無定見(？)ト陸軍ノ急進武斷(？)トハ政令ニ途ニ出ツルノ奇
觀ヲ呈シ其ノ間滿鐵ノ介在スルアリテ去就ニ迷フ處尠カラス是レ一
ニ制度ノ不備ト其ノ局ニ當ル者ノ適任ナラサルニ依レリトシ滿鐵ト
統一シ領事ハ各國トノ關係其ノ他ニ依リ之ヲ存置スルモ都督ノ下ニ
統轄セシメ從來ノ不統一ニ對シ先ツ内部ノ乘離ヲ防クト共ニ各機關
ニ然ルヘキ人物ヲ配置セントスル方針ヲトリ關東都督ヲシテ滿鐵ヲ

(已覽用紙)

外務省

モ統裁セシメムトスルナリ外務當局カ此ノ改革ニ好意ヲ有セサリシ
ハ前述ノ如ク殊ニ滿洲ノ領事官ヲ都督ノ統轄ニ服セシムルノ點ニ付
テハ強硬ナル反對ヲ試ミタリ此ノ反對アリシニモ拘ハラズ寺内内閣
ハ其ノ計畫セシ南滿行政ノ統一ヲ實行シタリ然シ乍ラ其ノ改革ノ實
態ヲ見ルニ最初企圖セラレタル所トハ異ル點少カラス是等ハ多ク外
務當局ノ意見ヲ斟酌シタルモノナラムサテ本改革ニ伴フ勅令ハ大正
六年七月二十八日勅令第七六號、勅令第八二號、勅令第八七號、勅
令第八九號等トシテ公布セラレタルカ其ノ結果ヲ略述センニ
勅令第七六號ハ外務省官制ヲ改正シ第一條第二項「外務大臣ハ關東
州ニ關スル事項ヲ統理ス」ヲ「外務大臣ハ外交ニ關スル事項ニ付關
東都督ヲ指揮監督ス」トシ第五條中政務局ノ管轄事項ヨリ「關東州

(已覽用紙)

外務省

(已 號用紙)

ニ關スル事務ヲ削レリ之ニ依リ外務大臣カ關東都督ノ諸般ノ政務ノ統理ヲ監督シタル(關東都督府官制明治三九勅令第一九六號四條)ヲ改メテ内閣總理大臣ノ監督ヲ受ケ只外交ニ關スル事項ニ付テノミ外務大臣ノ監督ヲ承クルコトナレリ
勅令第八二號ハ關東都督府官制ヲ改正シタルカ重ナルモノ左ノ通りナリ

第二條 關東都督府ニ關東都督ヲ置ク

都督ハ關東州ヲ管轄シ南滿洲ニ於ケル鐵道線路ノ保護及取締ノ事ヲ掌ル

都督ハ南滿洲鐵道株式會社ノ業務ヲ統裁ス

第四條 都督ハ部下軍隊ヲ統率シ内閣總理大臣ノ監督ヲ承ケ諸般ノ

外務省

S 1.4.4.0 - 1 28

(已 號用紙)

政務ヲ統理ス但外交ニ關スル事項ニ付テハ外務大臣ノ監督ヲ承ク

第十條中「外務大臣」ヲ「内閣總理大臣」ニ改ム

註都督ハ其ノ管轄區域内ノ安寧秩序ヲ保持シ又ハ鐵道線路保護及取締ヲ行フ爲必要ト認ムルトキハ兵力ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ直ニ外務大臣陸軍大臣及參謀總長ニ報告スヘシ(關東都督官制明治三九勅令第一九六號十條)第十五條第一項ヲ左ノ如ク改メ第二項ヲ削ル

都督府ニ都督官房、民政部、警務部及陸軍部ヲ置ク
註都督府ニ都督官房ヲ置ク

外務省

S 1.4.4.0 - 1 29

都督官房ニ秘書課、文書課及外事課ヲ置ク其ノ事務ノ分掌
ハ都督之ヲ定ム（關東都督府官制明治三十九勅令第一九六號
十五條一項二項）

第二十二條ノ二警務總長ハ南滿洲駐劄憲兵ノ長タル陸軍將校ヲ以テ之ニ充
ツ都督ノ命ヲ承ケ警務部ノ事務ヲ掌理ス

第二十三條 三外事總長ハ民政部ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ涉外事務ヲ掌理ス
勅令第八七號ハ官制改革ニ依リ關東都督府ニ憲兵司令官ヲ置キ警視總
長ノ資格ニ於テ都督府及領事館警察ノ警務ヲ統括シ憲兵ヲテ警察官ヲ
兼ネシメ得ル途カ開カレタルヲ以テ南滿洲在劄ノ憲兵關東都督府警部
任用ニ關スル規定ヲ設ケタリ

勅令第八八號ハ滿洲駐在ノ領事、副領事ノ特別任用ニ關ス

（E 號用紙）

外務省

S 1.4.4.0-1 30

勅令第八九號ハ今回ノ滿洲行政統一ノ結果南滿洲鐵道株式會社總裁ハ
關東都督ニ於テ之ニ當ルコトナリタル爲滿鐵職制（明治三十九年勅令
第一四二號）ヲ改正シ總裁副總裁ヲ廢シテ理事長一人ヲ置連事長ハ會
社ヲ代表シ關東都督ノ命ヲ承ケ會社ノ業務ヲ執行スルモノトシ理事長
事故アルトキハ政府ノ指定シタル理事其ノ職務ヲ代理スヘク理事ハ理事
長ヲ補助シ會社ノ業務ヲ分掌スルモノトセリ

是等諸改正案カ夫々公布セラレタル後數日即七月三十一日寺内首相ハ
本野外相ニ副令ヲ與ヘタルカ其ノ一部ニ「朝鮮、台灣、樺太及南滿洲
ノ施政機關ハ各其ノ創設ノ年所ヲ異ニシ性質組織相同シカラザルモノ
アリ中央ニ於ケル監督官廳亦區々ニ分レ統督上不便尠カラス依テ新ニ
内閣總理大臣管理ノ下ニ拓殖局ヲ設置シテ之カ統一ヲ圖リタリ鮮滿

（E 號用紙）

外務省

S 1.4.4.0-1 31

道ハ我帝國唯一ノ大陸交通機關ニシテ朝鮮滿洲及東蒙古ノ經營拓地上
一身同体常ニ脈絡相通セシムルノ極メテ緊切ナルヲ認メ茲ニ關東都督
府官制ヲ改正シ都督ヲシテ南滿洲鐵道株式會社ノ業務ヲ統裁セシムル
ト共ニ朝鮮鐵道ノ經營ヲ南滿洲鐵道株式會社ニ委託シ其ノ統一ヲ期セ
リノ言アリ以テ本改正カ初メ企圖セラレタルカ如ク在滿洲領事官ヲ
關東都督ノ管轄ノ下ニ服セシムルコトナキノミナラス領事官ノ關スル
限リニ於テハ殆ト從來ノ儘ニシテ「南滿洲ニ駐在スル領事官ヲシテ關
東都督府事務官ヲ兼ネシムルヲ得」ルコト（都督府官制第二十一條二
項）故ノ如ク只南滿駐在ノ領事副領事特別任用ノ途ヲ開ケルノミ本野
外相ヨリ駐支林公使宛滿洲行政統一ノ爲メ官制改革ノ大要ヲ前以テ通
知セル公文中ニモ

(E 號用紙)

S 1.4.4.0 - 1 32

外務省

「南滿州駐在ノ領事官ニ對スル關東都督ノ監督指揮權ニ付テハ勅令案
中何等ノ規定無ク領事官ハ従前ノ通外務大臣ノ指揮監督ニ服スルコ
トトシ唯外務大臣ヨリ在南滿領事官ニ對シ「外務官憲トノ交渉ヲ要
セサル行政事務ニ關シ都督ヨリ照會アリタル場合當該領事官ハ速ニ
之カ實行ノ方法ヲ講スヘシ且右實行カ外交上支障アリト認メラルル
場合ニハ外務大臣ニ請訓スヘシ」トノ訓令ヲ發スルコト
ノ文句アリ之ニ依リテ見レハ在南滿領事官ノ其ノ管轄地域内ニ對ス
ル警察權ハ滿洲行政統一前ト何等異ル點ナキカ如シ從テ滿鐵附屬地
ニ駐在スル領事官ハ附屬地内ニテハ關東都督府事務官トシテ警察權
ヲ行使シ附屬地外ニ於テハ領事官トシテノ固有ノ職權ニ基キテ警察
權ヲ行使スルモノトシ「附屬地内ノ警察規則制定ニ關シテハ都督ノ

(E 號用紙)

S 1.4.4.0 - 1 33

外務省

指揮ヲ承ケ又同附屬地外ノ警察規則ハ事情ノ許ス限り附屬地内ノ規則ト調和ヲ計リ且制定ノ都度都督ニ報スヘキコト亦從前ノ通りト云ハサルヘカラス

本改革ニ對シテハ滿州行政ノ統一成レリトシテ歡迎スル者アルト同時ニ支那若ハ歐米方面ニテ日頃日本ノ對滿州野心ニ付疑懼ノ念ヲ包藏シタルモノハ今ヤ日本カ愈々其ノ實現ニ着手シタリトシテ日本ノ軍國主義ヲ非難スル向少カラス例ヘハ紐育「イブニングポスト」紙ノ如キハ *Japan to put Manchuria under a military rule* ト云ヒ外務當局ノ改革當初懷キタル懸念ヲ裏書スルモノアリタリ
加之本改革ノ一缺點ト云フヘキハ關東都督ヲシテ滿鐵總裁ヲモ兼ねシメタル點ナリ即都督ナル一個ノ武辨ヲ拉シ來リ之ヲシテ一營利會

(已號用紙)

外務省

S 1.4.4.0-1 34

社ヲ統裁セシムルカ如キ決シテ事ノ道理ニ適ヘルモノト言フヘカラス斯クテ本改革モ長年月ノ生命ヲ有スルコト能ハサリキ
原内閣ニ至ルヤ當時ノ風潮ハ軍國主義ヲ排スルコト甚タシク殖民地行政モ從來武官カ之ニ當リタルヲ文官ヲ以テ之ニ更フヘシトノ論議アリ内閣モ亦其ノ方針ヲ之ニ順應セシメ殖民地ニ文官統治ノ制度ヲ施クコトトシタリ其ノ結果大正八年勅令第九四號ヲ以テ關東都督府官制ヲ廢シ關東廳官制ヲ公布シ關東州ニ文官統治ヲ行フコトトセリコレ現行ノ關東州ノ行政制度ナルカ其ノ大要ヲ擧ケンニ
(一)關東州ニ關東廳ヲ置キ關東長官ハ親任ノ文官ヲ以テスルヲ原則トシ武官ヲ例外トスルコト(一條、三條)
(二)長官ハ關東州ヲ管轄シ南滿ニ於ケル鐵道線路ノ警務上ノ取締ヲ掌

(已號用紙)

外務省

S 1.4.4.0-1 35

(目 號用紙)

ル (二條)

(三) 長官ハ涉外事項一般ニ付キ外務大臣ノ監督ヲ受クルコト (四條但書)

(四) 別ニ關東軍司令官ヲ置キ駐屯軍隊ノ統率ヲ之ニ委ネ關東廳官ヲシテ必要ノ場合兵力ノ使用ヲ同司令官ニ請求スルヲ得シムルコト (七條)

(五) 滿鐵トノ關係ハ舊制ヲ回復シ關東廳官ハ滿鐵ノ業務ヲ監督ス尙交通事務ニ關シ顧問ヲ置キ滿鐵社長ヲ以テ之ニ充ツ (二條三項、十五條末項)

(六) 官房ノ外民政部及外事部ヲ置キ外事部長ハ奉天總領事ヲ以テ之ニ充ツ (十五條二項)

外務省

S 1.4.4.0 - 1

36

(目 號用紙)

(七) 警務部及警視總長ヲ廢シ憲兵ヲシテ警察官ヲ兼ネシムルノ制ヲ廢ス註民政部ハ後内務局警務局ニ分レタリ
事務官ハ南滿州ニ駐在スル領事官ヲシテ之ヲ兼ネシムルコトヲ得ルハ従前ノ通 (十五條三項)

外務省

S 1.4.4.0 - 1

37

支那の行政

(分類 1.4.4.0.1)

大正十三年

南滿洲鐵道附屬地行政權
司馬維新

安奉線附屬地行政權ニ關スル一考察

一、安奉線附屬地ニ對シ我國ハ長春旅順線附屬地ニ對スルト全然同様ノ行政權ヲ行テ居ルカ該行政權カ何等カ條約明文上ノ根據アルモノテアルカ將又條約明文上ノ根據ハ無キモ多年ノ慣行ニヨル既成事實テアルカハ問題テアル
二、支那側ニ於テ時々多少ノ苦情カアツタニシテモ現ニ角今日迄十五年間行ツテ未タ事實ハ一應慣行ニ依ル既成事實ナリト云フコトカ出來ル、然シ支那側カラ云ヘハ僅々十五年間ノ期間ヲ以テ直ニ既

外務省

(已 號 用 紙)

成事實カ完成シタト云フコトカ出來ナイノミナラス、其間支那側ハ漫然默認シテ居タノテハナク時々苦情ヲ申出テテ居ルト主張スルコトカ出來、彼我ノ立場ハ五拍々々ト云フコトニナリ我方ノ主張ハ慣行ノミテハ比較的根底弱キヲ感セサルカ得ナイ
三、次ニ條約明文上ノ根據アリヤ、抑モ此點ニ關スル據點ハ先ツ明治三十八年滿洲ニ關スル日支條約附屬協定第六條中ニ「該鐵道ニ關スル事務ハ東清鐵道條約ニ準シ清國政府ヨリ委員ヲ派シ查察經理セシム」(該路事務中國政府援照東省鐵路合同派員查察經理)トアルニ存スル
四、支那側テハ本規定ハ東支鐵道條約ニ準シテ支那側委員ヲ派任スヘキコトヲ定メタルモノニシテ其ノ事務全般ニ付同鐵道條約ニ準ス

外務省

(已 號 用 紙)

ルコトヲ定メタルニ非ス、又假ニ事務全般ニ關スルモノナリトス
ルモ右ハ單純ナル鐵道經營事務ヲ指スモノテ警察、教育、課稅等
ノ如キ行政權ノ施行ハ^{行政事務}主張スルカモ知レナイカ、本
規定ノ正確ナル解釋ハ之ヲ本條約締結當時ノ經緯ヨリ推理シナケ
レハナラヌ

日支條約第六條ノ規定ハ^{今此條}初メ日本側ヨリ安奉線ヲ長春旅順線ト全
然同一條件ヲ以テ日本ノ管理ニ置カンコトヲ主張シタルニ對シ支
那側ニ於テハ兩者ヲ區別シテ取扱ハンコトヲ求メ種々討議ノ末年
限ノ點ニ於テ滿鐵本線ト區別スルコトトシテ折合ヒタルモノテア
ル、此點ハ談判筆記ニ依レハ疑ノ余地ナキモ會議錄ニ依ルモ亦明
瞭テアル

外 務 省

S 1.4.4.0 - 1 40

此點ニ對シテ
若シテ

依テ本規定ハ該鐵道ハ東支鐵道條約ノ規定ニ準シ經營シ從テ支那
側ハ委員ヲ派シ之ニ參與セシムルコトヲ定メタモノテアル

右ノ點ハ明治三十八年十一月二十八日ノ會議ニ於テ支那全權カ
前回ノ會議ニ於テ日本國全權委員ノ提議シタル該鐵道管理年限ニ
關シ熱議ヲ盡シタル上勉メテ日本國全權委員ノ希望ニ應スヘキ趣
意ヲ以テ爰ニ最終ノ讓歩トシテ該鐵道ヲ日本國ニ管理スル年限ハ
改良工事完成後十五個年トナシ改良工事完成ノ期限ハ之ヲ二個年
ト定ムヘシ而シテ十七個年經過ノ後ニハ現存物件ノ代價ヲ公正評
價人ニ見附ラシメ清國政府ニ賣渡スヘク又改良工事ハ日本國ノ經
營擔當者ニ於テ清國政府ヨリ特派スル委員ト商議決定セシムヘク
該鐵道ノ監理方法ハ東支鐵道ノ例ニ倣ヒ(該鐵路事務中國政府接

(已 號 用 紙)

外 務 省

S 1.4.4.0 - 1 41

(已 號 用 紙)

照東省鐵路辦理) 又該鐵道ニ依リ清國政府ノ軍隊及兵器糧食ヲ運搬スルコトハ東清鐵道ノ章程ニ準シテ之ヲ取扱フヘク清國公私ノ貨物運搬ノ運賃ハ關内外鐵道ノ賃率ニ準スルコトトナスヘシ(下略)」ト提議シタルニ見ルモ明テアル

其次ニ事務トハ單純ナル鐵道經營ノ事務テアツテ警察、教育、課税等ノ行政權ノ施行ヲ包含セストノ主張ハ東支鐵道カ特殊ノ狀況ノ下ニ建設セラレ經營セラレタルモノナルコトヲ全ク忘レタ議論テ云云事務ナル語ヲ普通ノ狀態ニ於ケル鐵道例ヘハ日本ノ國有鐵道ヤ米國ノ私有鐵道ノ事務ニ限ツタ見解ヲ採ルニ足ラス、東支鐵道即チ南滿本線ノ事務ハ單純ナル鐵道ノ建設、營善、運輸、營業等ノ事務以外、附屬地ノ行政權施行ヲ含テ居ルモノテアルコトハ東

外 務 省

(已 號 用 紙)

支鐵道條約第六條ニ依リ明テアル從テ安奉線ノ事務モ亦然リテ此ノ點ハ前述ノ通り會議ニ於テ日本側カ安奉線南滿本線同一條件ヲ以テ日本ノ管理ニ置カント主張シ日本國政府ヲ於テ安奉線奉天間ニ敷設シタル鐵道ヲ長春旅順間鐵道ト同一ノ條件ヲ以テ維持運用スルコト(由安東縣奉天省城以所築造之鐵路由日本國敷設ノ末年限ノ點ニ於テ滿鐵本線ト區別スルコトトシテ折合ヒタル經緯ニ依ルモ明ナル處テアル

外 務 省

本件ニ關スル卑見

亞細亞局第...

(已號用紙)

一、安奉線附屬地ニ對シ帝國カ有スル權利ノ何タルカニ付テハ條約
其他ノ取極上何等ノ根據ナシ

イ、一八九八年三月大連灣租借ニ關スル露清條約第八條ニヨレハ
「清國政府ハ千八百九十六年東清鐵道會社ニ許與シタル特許權
ヲ本協約^編印ノ日ヨリ擴張シテ今後同鐵道幹線ノ一驛ヨリ大連
灣マテ並必要ノ場合ニ於テハ該幹線ヨリ營口及鴨綠江口間ニ於
ケル遼東半島ノ沿岸ニ於ケル一層便利ナル地點マテ布設セラル
ヘキ聯絡枝線ニ及ホスコトニ同意ス

該追加枝線ニ對シテハ千八百九十六年八月二十七日清國政府ト
露清銀行トノ間ニ締結セラレタル契約ノ總テノ條項ヲ正確ニ適

外務省

S 1.4.4.0-1

44

用スヘキモノトス(下略)

トアル處本條ニ豫想スル東清鐵道ノ延長線ハ即チ現在ノ南滿本線
ノ外例ヘハ大石橋營口線、安東大石橋線、安東遼陽線又ハ安奉線
ノ類ヲ指スモノノ如キモ同年四月ノ露清條約第三條ニヨレハ

「露西亞政府ハ「シベリヤ」幹線ト遼東半島ヲ聯絡スヘキ鐵道
線^陸終點カ旅順口及大連灣兩港タルヘク該半島沿岸ノ他ノ地
點タラサルヘキコトヲ承諾ス」

ト有リテ明ニ前記諸線ヲ排斥シタルコトヲ制定シタルヲ以テ、安
奉線ヲ以テ本條約ニ基ク枝線ナリトハ稱シ得ス

口、明治四十二年九月滿洲五案件ニ關スル日支條約第二條ニ於テ
「支那政府ハ大石橋營口支線ヲ南滿洲鐵道支線ト承認シ」居ル

(已號用紙)

S 1.4.4.0-1

45

外務省

(已號用紙)

ニ鑑ルモ安東線ヲ以テ滿鐵ノ支線ト目スル爲ニハ如此支那政府
明示ノ意志表示ヲ要スルモノト謂フヘシ
ハ、明治四十二年本鐵道ニ關スル日支交渉ノ際當方ハ支線説ヲ主
張セルモ支那側ハ之ヲ容認セス、遂ニ本件ハ後日ノ交渉ニ回シ
テ打切ト成レルニ願ルモ支線説ハ未タ事實上支那側ノ承認ヲ得
居ラス

ニ、滿鐵支線タルノ承認ナキ以上安奉線ニ對シ一八九六年東清鐵
道會社建設ニ關スル露支條約第六條ノ規定ヲ採用シテ同附屬地
内行政權カ帝國ニ存スルヲ論スルコト能ハス
ホ、前顯日清交渉當時ノ記録ニ徵スルモ我方ニ於テ支線説ヲ以テ
全然疑フノ餘地ナシトハ認メ居ラス、且八月七日附支那側公文

外務省

S 1.4.4.0 - 1

46

(已號用紙)

末尾ニ

「守備兵ハ旅(順)長(春)ノ一線ヲ指シテ言フヘク他ノ線路
ニハ援照スル能ハス約内又明文ナシ、鐵道警察ハ將來自ラ當ニ
清國ヨリ派遣スヘシ是亦併セテ聲明致置候」

ト記載シアルニモ拘ハラス向月十日ノ我方回答ニハ他ニハ反駁
ノ個所アルモ此點ニ付テハ一言モ言及シ居ラス即チ我方ハ少ナ
クモ積極的ニ之カ反駁ヲ試ミサリシ丈ノ事實ハ存ス、支那側ヲ
シテ曲論セシムレハ之ヲ以テ默示ノ意志表示ト爲スヤモ測ラレ
ス

外務省

S 1.4.4.0 - 1

47

明治三十八年滿蒙ニ關スル日支條約附屬協定第六條ノ「該鐵道ニ關スル事務ハ東清鐵道條約ニ準シ清國政府ヨリ委員ヲ派シ查察經理セシム」云々ノ一段ヲ採用シテ安東線附屬地行政權全部帝國ノ有ナルコトヲ説クハ甚タ困難ナリ

イ、右文句ハ支那文ノ示スカ如ク「該路事務、中國政府、援照東省鐵路合同、派員查察經理」ニシテ一個ノ連續シタル意味ヲ指シ「該鐵道ニ關スル事務ハ東清鐵道條約ニ準シ」^且「清國政府ヨリ委員ヲ派シ查察經理セシム」ルモノト二段ニ解スルコトヲ得ス、右ハ清國政府ニ於テ派員スルノ一事ハ東支鐵道ノ例ニ倣フト云フニ過キス

ロ、從テ所謂事務ナルモノハ單ニ鐵道固有ノ事務ニシテ決シテ附

屬地行政事務全般ヲ指スモノナラス

ハ、右ハ前記東支鐵道條約第一條ヲ見レハ明白ナリ、曰ク

「該會社ノ總辦ハ清國政府ニ於テ之ヲ選任シ其公費ハ該會社ヨリ支辯スヘシ該總辦ハ、、、、會社ガ清國政府ノ委任シタル事項ヲ實力奉行スルヤ否ヤヲ隨時查察スルニ在リ該會社ト清國政府及地方各官ト交渉スル事宜モ亦該總辦ノ經理ニ歸ス
le Président sera chargé de veiller particulièrement à l'exécution - - - Il sera chargé des relations de la Société avec le Gouvernement Chinois - - -

ニ、又現ニ明治四十二年安奉線ニ關スル日支交渉ニ際シテモ我方交渉方針中ニ「清國ヨリ查察經理委員ヲ任命スルコトハ主義ニ於テ異議ナキコト」ヲ明定シ、後ニ至リ先方モ「查察經理員ヲ

派スル目的ハ主トシテ改良工事ノ費用ヲ查察セシメ十五年後清
國ニ買收スル際ノ參考トナス考ナリト述ヘ（四十二年八月在
奉天小池總領事來電第一二五號及四月七日附慶親王ヨリ伊集院
公使宛公文參照）翌四十三年一月二十五日メ同總領事ハ交渉使
ノ照會ニ對シ「安東鐵道ニ關スル查察經理員黃國璋氏同鐵道沿
線一帶及大連ニ赴キ各項工程賬目等ヲ查察スル旨御申越相成、
、、黃委員出張ニ際シテハ出來得ル限り便宜ヲ計リ候様滿鐵
ヘ轉知可致」ト回答シ居レリ

（已號川紙）

外務省

S 1.4.4.0-1

50

依テ惟フニ本線附屬地ニ對スル帝國ノ權利ハ要スルニ明治三十八
年條約締結當時ノ彼我了解ニ據ル外ナシト信ス、四十二年三月十
九日附奉天宛訓電中同趣旨ノ文句アリ

（已號用紙）

外務省

S 1.4.4.0-1

51